



共産党・志位委員長が 国連で演説

「核兵器禁止条約の国連会議」で

現在、国連本部で開催されている「核兵器禁止条約の国連会議」で3月29日、日本共産党の志位和夫委員長が「市民社会」の代表の一人として、演説(ステートメント)を行いました。国連の公式会議で党の代表が演説を行うのは初めてです。

今回の「国連会議」は政府とともに「市民社会」=NGOを正式の構成メンバーとしています。「市民社会」代表には1日15分間の発言時間が割り当てられています。世界中から多くのNGOが会議に参加し、発言を要求しており、1人に割り当てられた演説時間は2~3分程度です。

核保有国の参加を求めつつ、圧倒的多数の国々によって 核兵器禁止条約が締結されることは、大きな意味がある。

——志位委員長の演説の全文を紹介します

日本の国会議員で日本共産党委員長の志位和夫です。「核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)」に所属しています。

日本政府が、この議場にいないことはたいへんに残念なことです。しかし、被爆者の方々と日本国民の大多数がこの「国連会議」を支持していることは明らかです。

核兵器禁止条約の交渉についていえば、核兵器に依存する国々に(核兵器保有国と「核の傘」のもとにある国)の参加が求められることはいまでもありません。

しかし、仮に、最初はそれらの国々への参加が得られなかったとしても、賛成する圧倒的多数の国々によって核兵器禁止条約が締結されるならば、核兵器の使用と威嚇は違法化され、核兵器の保有には悪の烙印(らくいん)が押されることとなります。

核兵器禁止条約の締結は、市民社会の組織の力と合わさることによって、核兵器に依存する国々に対して、政策を変え、核兵器の完全廃絶への取り組みに加わるよう迫るものとなります。

私は、この「国連会議」が大成功することを強く願っています。被爆者の方々もまさしく同じ思いでしょう。ご清聴ありがとうございました。

力をあわせ核兵器の廃絶を!!

核兵器禁止条約を討議する歴史的な国連会議に、日本政府が不参加を表明したことは許せません。唯一の被爆国である日本の声を政府にかわって届けた、(オランダの反核NGO)と評された志位委員長の演説の立場でがんばります。



衆院15区予定候補

よしだとしお

吉田としお



都議会議員(江東区選出)

あぜがみみわこ

あぜ上三和子

日本共産党



ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590

2017年4月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可